

令和7年度全国学力・学習状況調査 問題別調査結果の概要

秩父市教育委員会 教育研究所

小学校

- 【国語】○問題形式「記述式」の正答率は、県・全国の平均正答率との差が小さかった。
○無解答率は、全ての問題で県・全国の平均無回答率を下回った。
▼思考力・判断力・表現力等の「A 話すこと・聞くこと」「C 読むこと」の問題に課題がある。
▼問題形式「選択式」「短答式」の問題に課題がある。
- 【算数】○無解答率は、16問中13問の問題で、県・全国の平均無回答率より低かった。
▼全体的に課題があるが、特に「C 変化と関係」の問題に大きな課題がある。
▼県・全国の平均正答率を10%以上下回る問題が2問あった。
- 【理科】○県・全国の平均正答率を上回る問題が2問あった。
▼思考・判断・表現の問題、問題形式「選択式」「短答式」の問題に課題がある。

中学校

- 【国語】○県・全国の平均正答率を上回る問題が3問あった。
○問題形式「短答式」の問題は、県・全国の平均との差が小さかった。
○分類別では、県・全国平均から5ポイント以上差がついた項目はなかった。
▼無回答率が30%を超える問題が2問、20%近い問題が1問あった。
- 【数学】○領域「D データの活用」の問題は、県・全国の平均正答率を上回った。
「相対度数を求める問題」では、県を9ポイント以上、全国を10ポイント以上上回った。
▼領域「A 数と式」「C 関数」、問題形式「選択式」「記述式」の問題に大きな課題がある。
▼県・全国の平均正答率を10ポイント以上下回る問題が3問あった。
▼無回答率が30%を超える問題が2問、20%を超える問題が2問あった。
- 【理科】○県・全国の平均正答率を上回る問題が7問あった。
▼県・全国の平均正答率を9ポイント以上下回る問題が3問、10ポイント以上が2問あった。

秩父市の傾向と課題より

- ①小学校6年生（国語・算数）では、中央値付近の割合が高くなっており、中央値より正答数が2～3問程度多い児童の割合が低く、2～3問程度少ない児童の割合が高い傾向である（図1）。
- ②小学校6年生（理科）・中学校3年生では、中央値付近に大きな谷があり、中央値より2～3問程度低い児童生徒の割合が高い傾向である（図2）。
- 以上2点から、下位層・中位層それぞれの課題を分析して児童への支援を充実させ、授業改善することで、効果的に秩父市の児童生徒の学力向上を図ることができる考える。

※次ページより、中央上位層と中央下位層の比較をしました。

